



— 改善で切り拓く未来 —

全日本物流改善事例大会2022

開催のご案内



会 期

2022年 5月10日(火)・11日(水)
10:00 - 17:00 (11日は16:40まで)

会 場

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター
sola city Hall



全国で取り組まれた物流改善事例が発表されます

主 催

公益社団法人

日本ロジスティクスシステム協会

一般社団法人

日本物流資格士会



参加のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大はグローバル化の進展、環境負荷軽減の推進、コンプライアンスの確保、人材・労働環境変化への対応など、企業経営を取り巻く重要な課題にも非常に大きな影響を与えています。これらの課題に対応していくために、企業競争力の向上と企業価値向上に大きく貢献するロジスティクスを構築し、部門間はもとより企業や業種・業界の枠を超えた連携が強く求められています。

ロジスティクスを効率的かつ効果的に機能させるのは、実質的な運営を司る物流現場です。企業経営にスピード、効率化が強く求められ、さらにコロナ禍により多様化、複雑化している経営や市場等の環境変化に柔軟に対応できる物流の「現場力」がこれまで以上に必要とされており、物流現場改善活動の推進は「現場力」を強化する重要な役割を担っております。

このような状況のもと、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会と一般社団法人日本物流資格士会では、物流における「現場力」をさらに高めるべく、優れた物流改善事例を相互に発表し、課題解決の手がかりやノウハウを共有していただくとともに、物流の実務者同士が集う情報交流の場となる「全日本物流改善事例大会2022」を開催いたします。

今大会では多数の応募事例のなかから選考された、25の優秀事例が2日間にわたって発表されます。また、今大会では、オンラインライブ配信を行い、どこからでも発表を聴講することが可能となります。物流改善に意欲的な取り組みを行っている企業の発表を通じて、参加各社の物流改善活動がさらに活性化し、エッセンシャルワークとしての物流が持続的・安定的に確保されることを期待しております。

この機会に是非関係各位の積極的なご参加をお待ちしております。

全日本物流改善事例大会2022 開催要領

会 期	1 日 目：2022年5月10日(火) / 10:00～17:00(セッションA・B・C・D) 2 日 目：2022年5月11日(水) / 10:00～16:40(セッションE・F・G・H)
会 場 (両日とも)	御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター sola city Hall / 東京都千代田区 神田駿河台4-6
プログラム	物流の実務者による改善事例について、物流センター等での現場改善を対象とした「I.物流業務部門」と運営・管理部門での改善を対象とした「II.物流管理部門」の部門別に募集し、応募事例の中から選考された「優秀事例」を本大会にて発表いただきます。 なお、優秀事例発表者にはクリスタルを贈呈いたします。
主 催	公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 一般社団法人 日本物流資格士会

全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員名簿

2022年2月現在 (順不同・敬称略)

委員 長	成蹊大学	名誉教授	渡 邊 一 衛
副委員長	東京海洋大学	学術研究院 流通情報工学部門 教授	黒 川 久 幸
委 員	伊藤忠食品(株)	ロジスティクス本部本部長代行 兼 ロジスティクス運営部 部長	神 山 浩 二
//	SBS東芝ロジスティクス(株)	物流改革推進部 企画担当 参与	脇 田 哲 也
//	SBSロジコム(株)	ファシリティ営業開発部 部長	三 身 直 人
//	(株)オカムラ	ロジスティクス統括部 受注管理センター 所長	磯 崎 隆 之
//	(株)カスミ	商品開発本部 物流担当マネージャー	齋 藤 雅 之
//	サッポログループ物流(株)	本社物流開発部 開発グループ部長	谷 垣 直 史
//	山九(株)	ロジスティクス・ソリューション事業本部 企画部 部長	石 渡 教 雄
//	大成建設(株)	エンジニアリング本部 副本部長	倉 林 宏 行
//	日本システムウエア(株)	ITソリューション事業本部 営業統括部 第二営業部 マネージャー	東 川 喜 之
//	(公益)日本ロジスティクスシステム協会	JILSアドバイザー	飯 田 正 幸
//	日本通運(株)	ロジスティクス部 ロジスティクスエンジニアリング戦略室長	成 瀬 慎 一 郎
//	福島大学	理工学群 共生システム理工学類 准教授	寛 宗 徳
//	本田技研工業(株)	四輪事業本部 SCM統括部 サプライチェーン管理部 事業管理課 主幹 物流部会ヘッド	鈴 木 勝
//	三菱地所(株)	物流施設事業部 リーシングユニット 専任部長	堀 川 亮 一
//	三菱電機(株)	生産システム本部 生産技術・ロジスティクス部 企画グループ 専任	安 藤 直 明
//	ロジスティクス エンジニア オフィス 茅ヶ崎	代表	藤 巻 敬

物 流 改 善 賞※

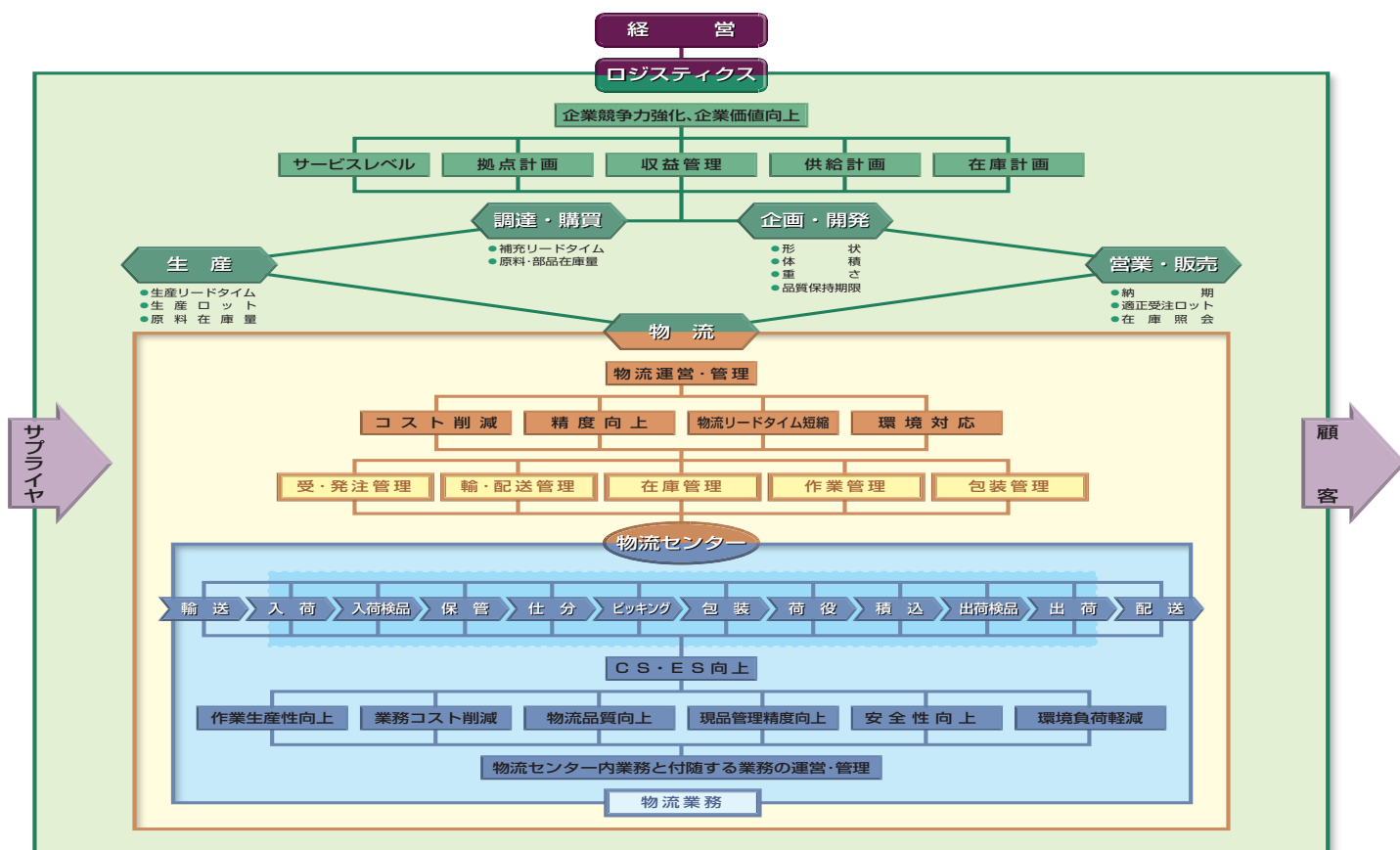
全日本物流改善事例大会 実行委員会では、大会でご発表いただいた優秀事例を審査のうえ「最優秀物流改善賞」および「優秀物流改善賞」を決定し、2021年6月開催の当協会定時総会の席上で表彰式を行います。受賞企業には正賞（表彰状）と副賞（賞金）を授与いたします。

また、受賞企業は、当協会のホームページ、機関誌「ロジスティクスシステム」で発表いたします。

※本大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更となります。

改善対象について

日本ロジスティクスシステム協会では、「ロジスティクス」「物流」「物流業務」の3領域に区分して、「ロジスティクス」を構成する1つの業務を「物流」とし、「物流」の中で物流センター内業務と付随する業務を「物流業務」としています。「全日本物流改善事例大会2022」では、「I. 物流業務部門」と「II. 物流管理部門」における改善事例を募集、その中から優秀事例に選ばれた事例を部門別に発表いただきます。



発表部門について

	I. 物流業務部門（物流センター等での現場改善）	II. 物流管理部門（運営・管理部門での改善）
対象範囲	ひとつの作業所（現場）で完結する小集団が対象	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流センター、生産工場、建築現場、病院、商業・港湾施設等	物流部門等
役割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理精度向上、安全性向上、環境負荷軽減等	コスト削減、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応等

各部門における事例

I. 物流業務部門（物流センター等での現場改善）	II. 物流管理部門（運営・管理部門での改善）
○庫内作業の改善例 ・ピッキングリストや棚表示、ピッキング作業の改善 ・人員配置の改善によるピーク時対応や負荷の標準化 ・荷役機械、保管設備、パレット、容器、情報端末等の改善 ・出荷頻度や取扱製品に応じた保管、配置方法の改善 ・作業環境、作業方法の改善 ・包装作業の改善 ○輸配送の改善例 ・復路輸送の空荷防止などによる収益の向上 ・誤出荷、誤納の減少 ・トラックの積載率、回転率、運行効率の向上 ・トラックの滞留・積載時間の短縮 ○輸出・輸入業務の改善例 ・港湾、空港など輸出入物流拠点における業務改善 ・コンテナ輸送における物流の効率化 ・通関業務における事務作業の改善 等 ○テクノロジーを活用した改善例 ・省人化機器（ロボティクス）・IoT・AIの活用による効率化・改善	○物流システムの改善例 ・物流拠点の統合・再配置による改善 ・事前出荷情報の取得と活用による改善 ・国内・海外物流拠点間輸配送の改善 ・港湾地区における渋滞への対応 ・IT・IoT活用による効率化、業務改善 ・物流に配慮した包装設計 ・パレット、包装資材の環境対策 ○管理系（取引条件等）の改善例 ・納期回答の迅速化 ・取引条件の変更による改善 ・物流変動に合わせた作業体制の構築 ・在庫の適正化 等 ・現場事務へのRPAの活用
物流全般 ・環境対応、環境負荷の低減を目指した活動 ・CSの向上（クレームの減少） ・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策	・災害対応について（震災・水害等） ・教育訓練によるモラル・モチベーションの向上 ・労働力不足への対応 ・労働環境改善、働き方改革

■参加要項

参加申込規定

参加料(会場参加・オンライン参加ともに同価格です。)

参加料金(消費税込み)		両日参加	1日参加
会 員	1 名	37,400円	22,000円
	4人目以降	27,500円	17,600円
会 員 外	1 名	61,600円	33,000円

※会員：日本ロジスティクスシステム協会会員、または日本物流資格士会会員
※上記料金には、テキスト代が含まれています。昼食代は含まれておりません。
※1社から4名以上参加の場合は、一括でお申込みください。
※都合によりプログラムが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

◆有資格者優待(フォローアッププログラム)

当協会では、有資格者のためのフォローアッププログラムを実施しております。本プログラムは、当協会主催の講座で習得した知識をより深い実践の場で活用できる能力を身につけたいという、有資格者からの強い希望を受けて、当協会認定の資格[※]をお持ちの方に、当協会主催のプログラムを、優待料金にてご提供するものです。実践力の強化、最新の情報収集の場として、ぜひご活用ください。

◇ フォローアッププログラム参加料(消費税込み)

両日参加：27,500円 1日参加：17,600円

(注)フォローアッププログラムにお申し込み後、参加者が資格をお持ちでない方に変更になった場合は、参加料の差額を請求させていただきます。あらかじめご了承ください。

有資格者優待の該当保有資格をご確認ください。

※ロジスティクス経営士、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流技術管理士、物流現場改善士

参加定員(会場参加)

●各日150名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

参加申込方法

●下記のWebサイトからお申し込みください。

●「参加証」と「請求書」は参加者の方へ開催日の約1週間前までにお送りいたします。

お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。

【開催日直前のお申し込みについて】

●定員に余裕があるときのみ当日受付も行いますので、事前に事務局に確認のうえ直接会場受付へお越しください。

●開催間近のお申し込みについては、参加証等は当日会場でお渡しいたします。

参加料支払い方法

●WEB請求書で請求いたします。WEB請求書は原則として参加者1のE-mail宛に送付いたします。それ以外をご希望の方は、連絡欄にご指示ください。

※請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振込みください。

※お支払いは原則として開催前日までにお願ひ申し上げます。(開催後になる場合は、連絡欄に支払予定日を明記してください。)

【お願い】

●参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。なお、代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。(注)キャンセルはFAXでのご連絡のみ申し受けます。

【キャンセル規定】

開催7日前～前々日(開催日初日を含まず起算) ……参加料(消費税を除く)の30%

開催前日および当日 ……参加料(原則として消費税を除く)の全額

ご 注 意

- テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はいたしておりません。
- スライド内容を撮影する目的での写真撮影および講演内容の録音はご遠慮ください。

事 務 局

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム3階

e-mail : kaizenjirei@logistics.or.jp

個人情報のお取り扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本大会に関する確認・連絡・参加者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

会場のご案内

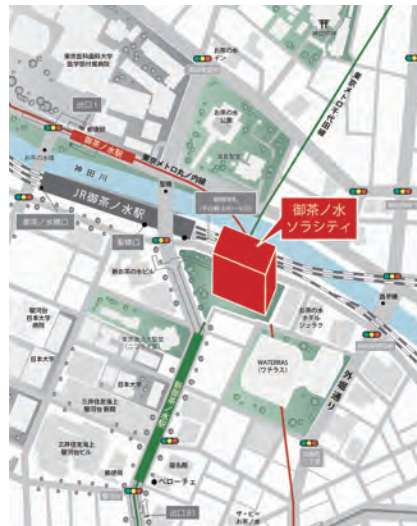
御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター

〒101-0062
東京都千代田区神田
駿河台4-6
御茶ノ水ソラシティ2階
TEL. 03-6206-4855

交通のご案内

- JR 中央線・総武線
「御茶ノ水」駅
聖橋口から 徒歩1分
- 東京メトロ 千代田線
「新御茶ノ水」駅
B2 出口[直結]
- 東京メトロ 丸ノ内線
「御茶ノ水」駅
出口1から 徒歩4分
- 都営地下鉄 新宿線
「小川町」駅
B3 出口から 徒歩6分

※お客様用の駐車場はご用意がございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用くださいませ。



新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

JILSでは、集約型事業の開催にあたり、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」等に基づき、感染リスクの低減対策を徹底します。

- 適切な収容人数を設定、来場者間の適切な距離を確保した座席配置等を行います。
- 消毒液を会場に設置し、入退場時の手指衛生を奨励します。
- 入場時に参加者の検温を行い、37.5度以上の方はご参加をお断りします。
- 会場では必ずマスクを着用していただきます。

詳しくは以下URLよりご確認ください。 <https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/jils-coronataiou.pdf>

オンライン参加について

大会会場での発表をオンラインライブ配信(Zoom利用)いたします。会場で配布されるテキストは、事前に郵送にてお届けし、手元にテキストを控えながらご参加いただけます。

<オンラインでのご参加にあたり>

日本ロジスティクスシステム協会(以下「主催者」という)が定める「JILSオンライン研修受講にあたってご承いただきたいこと」と、以下の事項に同意のうえお申し込みください。

- Zoomクライアントが使用できない場合はご参加いただけません。開催前に接続確認のご案内をいたします。
- 本大会の参加者は申込時に登録した参加者に限定し、1人1台のデバイスでご参加いただけます。
- 主催者に起因する事由や不測の事態により通信が中断した場合は、録画した本大会を期間限定で配信します。
- 参加者に起因する事由により通信が中断した場合は、主催者は責任を負わないものとします。
- 本大会の録画、録音、撮影は禁止します。
- 参加者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の聴講を中止させることがあります。

参加申込はJILS Webサイトから! <https://www1.logistics.or.jp/network/zennihon.html>

全日本物流改善事例大会2022

9:30	開場
10:00~10:10	開会 【物流現場活性化について】 渡邊 一衛 氏 全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員長 成蹊大学 名誉教授

セッションA	＜コーディネータ＞ 飯田 正幸 氏 (公益) 日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー 安藤 直明 氏 三菱電機(株) 生産システム本部 生産技術・ロジスティクス部 企画グループ 専任
--------	---

10:15 }	10:35	発表① 効率的な作業による体への負担軽減
F-LINE株式会社 南関東支店 川崎物流センター	本村 佳菜 氏 朴 昭征 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】加工食品 倉庫内での積替え作業やラベル貼付作業における作業導線改善について、机上でのシミュレーションだけでは、解析通りに物が保管されていない等の事象が発生していた。そこでソフトではなく、改めて"万歩計"を作業者に付け、作業負担を計測した。倉庫作業員への身近な可視化方法を構築し、結果作業員の健康改善につながった。
10:35 }	10:55	発表② 倉庫内の6Sによる作業生産性と安全性の向上
琉球物流株式会社 琉球物流運輸株式会社 総務部	大嶺 真彦 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】飲料 飲料メーカーの飲料商品を取り扱っているDC型倉庫において、3ヶ月の短期集中改善研修に取り組む中で、現状把握から見えた課題として作業生産性を向上させるため、倉庫内の環境整備に着目した。作業工程のムダを省くことにより、生産性の向上と一般的な5Sに+1S（整備）を加え、作業事故を未然に防ぐ職場環境整備を実施した。
10:55 }	11:15	発表③ リモートによるシンガポール海外倉庫の立上（コロナ禍でのNew Normal対応）
SBS東芝ロジスティクス株式会社 電子デバイス事業部 四日市ロジセンター	主任 米田 有三 氏 富永 くるみ 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】半導体製品 海外の倉庫運営は、製品管理水準や従業員の力量認定など国内同等の高度な品質レベルが要求される。コロナ禍の影響で海外倉庫の立上げは従来の指導者出張対応ではなく、リモート（遠隔指導）で実施する必要が発生した。現地作業員が分かるように標準作業や注意点を解説した動画を作成しボカコケ等の細かい仕組みまでノウハウを伝授、顧客要求を満たした立上げを完遂した。
11:20~11:25	コーディネータ コメント	
11:25~12:25	昼休憩	

セッションB	＜コーディネータ＞ 齋藤 雅之 氏 (株)カスミ 商品開発本部 物流担当マネジャー 成瀬 慎一郎 氏 日本通運(株) ロジスティクス部 ロジスティクスエンジニアリング戦略室長
--------	--

12:25 }	12:45	発表④ 超低コストで作業時間40%カット、種まきピッキングの改善とペーパーレス化。無料ツールを使いこなす。
不二運輸株式会社 コーポレート本部 情報システム課 主任	落合 敏久 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】他社制WMSシステム、androidタブレット、スプレッドシート 種まきピッキング作業において、トータルピッキングした商品を探すという無駄な作業が発生していた。印刷された紙を廃止し、タブレットに移行することで同時作業が円滑になり、ペーパーレス化にも成功。種まき作業時間が40%削減された。
12:45 }	13:05	発表⑤ ハイブリット型バース創設による車両待機時間の削減
サッポログループ物流株式会社 首都圏支社 業務部	高宮 真帆 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】ビール・RTD・和酒・洋酒・飲料水 昨今の多品種小ロット配送への変化を踏まえ、既存出荷バースの運用見直しを行うことで不活性だったバースの稼働率を上げ出荷全体の時間を短縮する事により待機時間を削減した。障壁となったのは関係者の思い込みであったが、定点観測やデータを活用、各人の意見を尊重しながら腹落ちをする説明を行うことで課題をクリアできた。
13:05 }	13:25	発表⑥ 目視Wチェックに代わる異常検知方法の構築と作業工程改善によるKPIの向上
ロジスティクスオペレーションサービス株式会社 東日本事業部	安孫子 幸司 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】食品・段ボール・パレットその他 新規受託した食料品のアソート作業に関して、検量作業のデジタル化による作業ミスリスク低減、作業進捗のサイネージ化、作業工程の履歴のデータ化を達成、また前後工程の動作分析を行うことで顧客のVOCと自社の生産性改善にも繋がる効果を得られる活動が出来た。
13:25 }	13:45	発表⑦ 業務用油製造時の入れ目量の誤差改善による製品油の削減
株式会社ウエダ	課長 福本 昌史 氏 担当 ファム・トウイ・ガン 氏	【改善事例における主な取り扱い製品】業務用の揚げ物油 業務用油の製造ラインにおいて、充填機の入れ目量（充填量）の誤差を見込んだ過量充填を行ってきたが、原油高騰の対策の一環として、機器の誤差幅を小さくし実生産数を向上するために、人、設備、手順・方法、材料の4つの視点で誤差の要因を分析、知恵と工夫で過量充填量を約43%削減することができた。
13:50~13:55	コーディネータ コメント	
13:55~14:10	休憩【15分間】	

プログラム

大会1日目：
2022年5月10日(火)

物流業務 部門

物流管理 部門

セッションC

<コーディネータ> 三身 直人氏 SBSロジコム(株) ファシリティ営業開発部 部長
寛 宗徳氏 福島大学 理工学群 共生システム理工学類 准教授

発 表⑧ 見える化ソリューションとWMSを利用した生産性の向上施策	
14:10 ～ 14:30	株式会社エヌ・ティ・ティ・ロジスコサービス 名古屋物流センター Gリーダー 西山 道明氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 通信機器及びそれに関連する製品等 見える化ソリューションより抽出した作業員毎の生産性データから、最も生産性の高い作業員をモデルスタッフとして設定、その作業を動画で検証した。その結果で他のスタッフとの作業の相違点を抽出、作業の標準化を進めた。合わせてピッキング・検品などの作業標準化や作業レイアウトの改善等複数の施策を進め生産性向上を実現した。	
発 表⑨ 継続的なKPI管理での生産性向上!	
14:30 ～ 14:50	日本ロジテム株式会社 船橋営業所 佐藤 一喜氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 インテリア関連の商材 営業所全体で小集団活動に取り組み、各小集団チームはKPIを元に時間当たりカット数・ピッキング件数向上を目指し作業方法、レイアウトの変更等、様々な改善活動を行った。現状の作業方法分析、検討、見える化の対応（カット機の機種毎の特徴・操作のコツ・個人目標設定など）を繰り返し、各チームでの目標達成につながった。	
発 表⑩ 安全・品質・生産性の現場全体改善	
14:50 ～ 15:10	山村ロジスティクス株式会社 営業本部 入間営業所 副所長 藤林 正幸氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 小売りチェーンストアへの日配食品 小売りチェーンストアへの日配食品を供給する物流センターを運営している当社は、庫内業務における「安全・品質・生産性」に関する改善に取り組んだ結果、事故・ケガを撲滅させ、誤仕分けによる欠品率を削減、また教育方法を構築してマンツーマン指導したことにより、個人生産性を向上させることに成功した。	
15:15～15:20	コーディネータ コメント
15:20～15:35	休憩【15分間】

セッションD

<コーディネータ> 鈴木 勝氏 本田技研工業(株) 四輪事業本部 SCM統括部 サプライチェーン管理部 事業管理課 主幹 物流部会ヘッド
藤巻 敬氏 ロジスティクス エンジニア オフィス 茅ヶ崎 代表

発 表⑪ OCR導入による伝票入力業務の時間短縮	
15:35 ～ 15:55	アサヒロジ株式会社 近畿圏支社 吹田支店 物流課 佐久間 晴久氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 空容器、パレット OCR（光学式文字読み取り装置）の導入により、空容器・パレット伝票の入力時間短縮を目指した取り組み。OCRの伝票読取率の低さや読取データ加工工程の複雑さ等の課題解決に取り組み、年間で420時間の時間短縮を実現。伝票入力業務の動画手順書も作成し、業務習熟期間の大幅短縮にも成功した。	
発 表⑫ withコロナ：在宅勤務を中心とした働き方改革およびBCP対応 ～物流事務作業の標準化とデジタル化によるリモート化及び生産性の向上～	
15:55 ～ 16:15	花王株式会社 SCM部門ロジスティクスセンター 東嶋 和太氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 日用品及び雑貨等 あるべき姿、withコロナ時代の働き方を考えた。在宅勤務を中心とした働き方を目指すとともに一層のデジタル活用を図ることで生産性を50%改善することを目標とした。業務分析を行い、新たな業務の標準化を図った。標準化作業の一部をRPA化し、生産性を52%高めた。また、在宅勤務を中心とした働き方へ改善した。	
発 表⑬ 返品計上作業時間がゼロに!! 年間2,000時間の削減 ～圧倒的成果を上げたRFID技術の活用Vol.1～	
16:15 ～ 16:35	ワコール流通株式会社 守山流通センター流通2課 主任 加藤 見咲季氏 チーフ 堤 うらら氏
【改善事例における主な取り扱い製品】 婦人インナーウェア RFID技術の活用として返品計上作業の改善を行った。改善前はハンディターミナルによる作業のため年間2,000時間の作業負荷が課題となっていたが、今回RFIDゲートの導入により返品商品の移動途中のゲートを通過させるだけで計上が完了し、作業時間は実質ゼロと飛躍的に改善した。	
16:40～16:45	コーディネータ コメント
16:50～17:00	【全体講評】 黒川 久幸氏 全日本物流改善事例大会 実行委員会 副委員長 東京海洋大学 学術研究院 流通情報工学部門 教授
17:00	閉会

※発表者、テーマは都合により変更になる場合がございます。

全日本物流改善事例大会2022

9:30	開場
10:00~10:10	開会 【物流現場活性化について】 渡邊 一衛 氏 全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員長 成蹊大学 名誉教授

セッションE	＜コーディネータ＞ 倉林 宏行 氏 大成建設(株) エンジニアリング本部 副本部長 堀川 亮一 氏 三菱地所(株) 物流施設事業部 リーシングユニット 専任部長
--------	---

発表⑭ 倉庫内における作業生産性の向上	
10:15 ～ 10:35	琉球物流株式会社 倉庫部 新港倉庫課 主任 伊波 匡 氏 【改善事例における主な取り扱い製品】 飲料 集中改善研修に取り組む中で、現状の把握、数値化、分析、問題を抽出し課題を見つけ、作業生産性を向上させるべく、現場作業員一丸となって改善を行った。フリーロケーションでの在庫管理を、出庫頻度別に配置を変更、管理し、移動等の無駄を省くことで、生産性の向上を行うことができた。
発表⑮ オンサイト業務における発送までのリードタイム縮小による生産性向上	
10:35 ～ 10:55	ロジスティクスオペレーションサービス株式会社 長野営業所 山田 和弘 氏 【改善事例における主な取り扱い製品】 パソコン本体・部品その他 パソコン部品（修理部品）の出庫・発送業務においてコロナ禍影響により出荷が一時的に減少、その反動により出荷・残業時間も増加。定時間内に作業を完了させるために既存KPIと変化後のKPIを分析し工数が増加した工程に対して顧客と協力しながら作業工程の見直し・導線分析（ABC分析）を実施し成果を得ることができた。
発表⑯ 間接作業の見直しによる生産性向上	
10:55 ～ 11:15	山村ロジスティクス株式会社 西日本第1営業部 尼崎営業所 所長 仲里 育宏 氏 【改善事例における主な取り扱い製品】 アパレル製品 アパレルセンターでの作業生産性改善事例。直効率の作業生産性は目標値を達成しているが、全体作業生産性は目標値に達していない状態であった。ワークサンプリングを活用し、各作業に対しどの程度の時間や工数を要しているかを観測、作業のムダを数値として表すことで、生産性向上へとつながる改善余地を探し出し改善を行った。
11:20～11:25	コーディネータ コメント
11:25～12:25	昼休憩

セッションF	＜コーディネータ＞ 神山 浩二 氏 伊藤忠食品(株) ロジスティクス本部本部長代行 兼 ロジスティクス運営部 部長 磯崎 隆之 氏 (株)オカムラ ロジスティクス統括部 受注管理センター 所長
--------	---

発表⑰		ダイバーシティ推進による組織風土の活性化 ～女性従業員に優しい倉庫環境作り～	
12:25 }	SBS東芝ロジスティクス株式会社 プラットフォーム事業部	【改善事例における主な取り扱い製品】 パソコン用サービスパーツ 職場でアンケートを実施した結果、困っていることは女性が多い職場で日次棚卸作業に時間を要していることだった。棚卸作業の工数増加要因は部品納入数の変動による部品の複数格納、取り出しにくい場所への格納が要因だった。入出荷の多い部品のロケーション配置を見直し、格納・ピッキングの標準化を図り、日次棚卸作業工数の削減に成功した。	
12:45	北関東支店検見川分室 アイケー物流株式会社 二本柳 徹 氏		
発表⑱		酒類共同配送のコスト改善	
12:45 }	サッポログループ物流株式会社 東北支社 物流業務部	【改善事例における主な取り扱い製品】 酒類（自社グループ製品、外販荷主製品） 東北6県及び新潟県への酒類共同配送について、外販荷主の採算は保管・荷役を含めたトータルでは利益を出しているものの、輸配送に限定すると不採算の状態であった。その最大の要因である新潟県の配送について、固定化した配送条件の見直しを行い、最適な配送モードを選択できるようにしたことでコスト改善を図った。	
13:05	神谷 武文 氏		
発表⑲		IEを活用した“ONE TEAM”による全体最適な庫内運営の実践 ～更なるユニットロードのSHINKAIに挑戦～	
13:05 }	NX・NPロジスティクス株式会社 西日本支店 西日本グローバル物流センター	【改善事例における主な取り扱い製品】 家電製品 ユニットロード化に取り組むなか、車輛の出発時間が変化しない等、庫内作業の部分的な改善が図れるも、全体的な改善にまで至っていない状況となっていた。その解決として、荷役作業から車輛出発までの工程をIE手法により分析、全体最適化にむけた取組みを行う。この取組みにより、持続的なユニットロード化実現を目指す。	
13:25	商品管理課長 大谷 英義 氏 商品管理課 主任 中村 圭輔 氏		
13:30～13:35		コーディネータ コメント	
13:35～13:50		休憩【15分間】	

セッションG

<コーディネータ> 石渡 教雄氏 山九(株) ロジスティクス・ソリューション事業本部 企画部 部長
東川 喜之氏 日本システムウェア(株) ITソリューション事業本部 営業統括部 第二営業部 マネージャー

発 表 ^⑳ ダブルトランザクション ～保管エリアと出荷エリアの切り分けによる保管効率・出荷作業効率の向上を目指す～	
13:50 ～ 14:10	株式会社キューソーエルブラン ビジネスサポート部 課長 小島 喜雄氏 第114期物流技術管理士 村山 直也氏 第6期物流現場改善士
【改善事例における主な取り扱い製品】保存食品、加工食品等の各種食料品及び日用雑貨品 昨今の出荷の少量多品種に伴い、以前と比べ出荷作業に時間を要するようになった。現状の人員で指定時間内に作業を終えるために、出荷エリアと保管エリアを区分けをし、保管エリアから出荷エリアへ設定したきい値分の安全在庫数を補充する流れに変更したことで、出荷作業時の移動時間の削減を実現し作業効率向上に繋がった。	
発 表 ^㉑ 既存運営と並行した保管棚搬送ロボット導入	
14:10 ～ 14:30	三菱電機ロジスティクス株式会社 物流技術部 基礎技術グループ 主管 高山 宜之氏
【改善事例における主な取り扱い製品】照明器具、小型換気扇、家電部品（エアコンのリモコン、クリーナー紙パック等） 倉庫業務の効率化のため保管棚搬送ロボットを導入。段階的な在庫移管により既存運営を止めることなく導入した。導入後は作業人工を約57%（7人→3人）削減、作業の属人化の解消および作業の標準化の改善効果を確認できた。	
発 表 ^㉒ 1tコンテナ充填用空コンテナ構内仮置きによるドライバー負担削減と運搬費用削減	
14:30 ～ 14:50	住化ロジスティクス株式会社 第二業務部 A&L業務課 平田 勇貴氏
【改善事例における主な取り扱い製品】ラテックス（1tコンテナ） 2017年当時、急激な物量増加対応が必要となり、荷主の要望に応えるため、ラテックス1tコンテナの充填作業を含む生産物流を効率化し業務改善することで、ドライバーの負担と運搬費用の削減を実施した。	
14:55～15:00 コーディネータ コメント	
15:00～15:15 休憩【15分間】	

セッションH

<コーディネータ> 脇田 哲也氏 SBS東芝ロジスティクス(株) 物流改革推進部 企画担当 参与
谷垣 直史氏 サッポログループ物流(株) 本社物流開発部 開発グループ部長

発 表 ^㉓ 管理者も管理したい。作業計画作成と実績追跡アプリ「Co-Work」の作成	
15:15 ～ 15:35	不二運輸株式会社 コーポレート本部 情報システム課 主任 落合 敏久氏
【改善事例における主な取り扱い製品】自社開発アプリ 作業計画に基づいて作業者に指示をしっかりと出せているか。管理者としての指標が漠然とした状態であり、能力の査定が不確かであった。そこで作業計画の作成から、実績を追跡するアプリを作成。作業量毎の時間計測のみならず、計画に対しての実働時間をKPIとして見える化することに成功した。	
発 表 ^㉔ 新ケースレス輸送治具導入による二輪完成車輸送の標準化	
15:35 ～ 15:55	本田技研工業株式会社 二輪事業本部 SCM部 物流管理課 チーフ 加藤 雄大氏
【改善事例における主な取り扱い製品】二輪完成車 二輪完成車がもつ特殊な荷姿特性を、新規開発した輸送治具に商品車両を積載することで標準化。作業効率、輸送品質の向上と同時に、トラックドライバーに手押しや縛着といった特殊技能を要求しない輸送を実現した。Hondaが進める全世界完成車荷姿戦略の皮切りとして、小型車用の汎用パレットをベトナム国内に先行導入した。	
発 表 ^㉕ 乗務員による荷役作業の安全確保と作業責任・役割の明確化	
15:55 ～ 16:15	住友精化株式会社 物流購買部 グループリーダー 上野 朋弘氏
【改善事例における主な取り扱い製品】樹脂製品・化学製品・高圧ガス製品 乗務員による荷役（付帯）作業が伴う納品先での安全な作業環境確保は長年の課題であったが、「ホワイト物流」推進運動を会社方針とすることで、運送会社、顧客と三者連携により、荷主として輸送の生産性向上、乗務員の労働環境の改善、作業責任・役割の明確化を実現した。	
16:20～16:25 コーディネータ コメント	
16:30～16:40	【全体講評】 黒川 久幸氏 全日本物流改善事例大会 実行委員会 副委員長 東京海洋大学 学術研究院 流通情報工学部門 教授
16:40	閉会

※発表者、テーマは都合により変更になる場合がございます。